



教えて!

市立病院

vol.58

市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

今月のドクター
小児科部長
本間信夫医師



テーマ 食物負荷試験のすすめ

アレルギー疾患とは、食物、ほこり(塵埃)、花粉、薬物などの中のアレルゲンが体内に入り、抗原抗体反応が過剰に起きることにより発症する症状のことです。疫学調査によれば、全国民の3分の1が何らかのアレルギー症状を訴えています。近年、児童のアレルギー疾患が増え続け、国民病となりつつあります。

その中でも、今回は小児の食物アレルギーについてお話します。食物アレルギーは、摂取した食物が原因となり、じん麻疹・湿疹・下痢・咳などの症状がでることをいいます。このアレルギーの診断のために行われるのが食物負荷試験です。食物負荷試験は簡単に言うと、アレルギーの原因となる食品を医療機関内で少しずつ食べていく検査です。

食物負荷試験の目的

- (1)アレルギーを診断するため
- (2)時間が経ったことで、その食品を食べることができるようになっているかを確認するため

食物負荷試験のメリット

医療機関が行う検査なので、症状が出たときにすぐに対応できる。

食物負荷試験をしない場合

- (1)アレルギーの原因となる食品を食べずに様子を見る。
- (2)アレルギーの原因となる食品を家で食べてみる。

食べずに様子を見る場合、すでに食べることができるようになっている可能性があっても食事制限を続けるので、本人だけでなく、食事の度に気を遣い続けなければならぬ保護者の負担にもなります。

一方、家で食べてみる場合についても、重篤な症状が出る可能性があります。血液検査、皮膚検査などの数値は、あくまで参考値と考えたほうがよく、症状が出ないと思って負荷試験を行っても何らかの症状が出てしまう場合があります。当科では食物負荷試験を行っていますので、食物アレルギーでお困りの場合は、一度ご相談ください。